

ふるさとふちゅう

再発見

【第54回】府中が農村だったころ（14）／用水（1）

井手や堰は、川を石や土手で堰き止めている場所を指しますが、そこから取水した用水路を指す場合もありました。文化12（1815）年の「国郡志下しらべ帳」では用水路を「堰」と記し、府中村に11か所が記載されています。メートルに換算し、長い順に紹介すると岡田（1230m）、長田（1132m）、中井手（1053m）、惣社井手（919m）、寺（545m）、山越（436m）、山田上（354m）、山田下（327m）、御衣尾（327m）、新宮（327m）、八幡（327m）です。多くは、埋め立てたり、暗渠になっており目にする事ができませんが、今も農業用水として利用され、流れも目にする事ができる岡田用水（井手）を紹介しましょう。岡田用水は享保9（1724）年の「差出帳」には記載が無く、文化12年の「国郡志下しらべ帳」に出ています。で、この間に完成したと考えられます。安永5（1776）年に完成した青崎新開の工事に八木村の桑原卯之助が参加しています。太田川西岸の田畑を潤した八木用水を完成させた人物です。全体の流れを見ながら取水口から適度の勾配を付けて流していくのは相当な

知識と技術が必要で、こういった人物から知識を得たのでしょう。現在府中町で米作りが行われているのは、山田地区と城ヶ丘地区です。このうち、城ヶ丘の水田はこの岡田用水が利用されています。取水口は水分峠下の榎木川（御衣尾川）で、みくまり墓苑下から林を抜け、尾根を通り、住宅地では一部暗渠となり低地の水田へと水が運ばれます。写真は、みくまり病院前の橋から用水が流れている西側の山を望んだものです。緑の線が、岡田用水の水路です。取水した川から相当高い位置で流れていることが分かります。ここから現在住宅地となっているかつての田地へ水が運ばれたのです。



みくまり病院前の橋からの写真

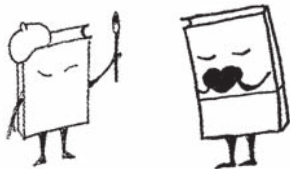
府中町文化財保護審議会委員

菅 信博

図書館からの 今月読むならコレ！

町立図書館 ☎286-3405

図書館職員が
選んだおすすめ
図書を紹介



＼子育て向け／



90分周期で9割の子が本当に眠ってくれる！

ポリー・ムーア／著 プレシ南日子／訳
日本文芸社／出版

赤ちゃんの成長にとって睡眠はとても重要ですが、寝かしつけるのに苦労しているパパママも多いようです。この本では、赤ちゃんの体内時計に合わせた眠りのトレーニングにより睡眠リズムを確立する方法を紹介しています。赤ちゃんもパパママも快適な毎日を過ごせるようになります。

＼子ども向け／



じゃばじゃじゃーん

柿木原 政広／作 福音館書店／出版

「うわっ、牛乳こぼしちゃった……」こぼれた牛乳をよく見ると……どこかで見たことあるかたちにそっくり！「うわっ、またこぼしちゃった……」あれっ、今度はあのかたちにそっくり！ページをめくるたびに、こぼれた牛乳がいろんなかたちに見えてくる楽しい写真絵本です。

府中町公式Instagramアカウント

まちの魅力を発信しています。

「わが家のアイドル」では、お子さん・お孫さんのお写真・動画も募集中！



◀Instagram
はこちら

応募は
こちら▶

